

景観アドバイザー会議の試行について

■ 目標設定シートに関する主な意見

■ モデル事業(大阪府立こんごう福祉センター)資料

○ 景観形成の目標設定シート①②

○ 第1回アドバイザー会議における意見と対応報告

○ 配置図

○ 平面図

○ 主要断面図

○ 立面図

○ その他

■ 第3回の開催について

○ 開催のタイミング

○ 用意する資料

■ 目標設定シートに関する主な意見

(第1回公共事業アドバイス部会での意見)

- 施設そのものに視点が向かいがちだが、施設が置かれる周りの状態や、関係すると思われる建物や通りから見た施設の有りようを考えるのが景観の目標設定
- 基本設計段階では、大きな方針の確認が必要
- 景観形成指針の施設別指針や共通指針の各項目に対し、それぞれどのように配慮したのかを一問一答式で書く方が書きやすい
- 景観形成指針に対する方針は、ある程度計画が進んだ段階で作成してはどうか

(第2回景観ビジョン推進部会での意見)

- 基本計画段階(シート①作成段階)では「景観上何を一番大事にするかを共有すること」が目的なので、シート①の「事業地周辺の景観の特徴の確認」と「景観形成の目標」の間にそれを記載する欄を設けるとよい
- シート②は景観形成指針の各項目のチェックシートに近いものなので、多くの文章を記入する必要はない
- 基本設計時にシート②のすべての項目を書き込むことが難しい場合もあるため、「検討中」の項目を設けてはどうか
- 基本設計段階(シート②作成段階)でも目標を立ててシートに記載することで、シート①、②、目標達成を確認するシートの全てに目標の欄ができ、流れが分かりやすくなる